①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・(10以下の数)－(１位数)，(十いくつ)－(１位数)の計算ができる。

・3つの数の計算，たし算ができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・残りを求める計算はひき算であること，13は10と3，10は9と1など数の合成分解や10のまとまりのよさを学習している。

教材研究ノート№1-A-9

≪学習問題≫

かきが13こなっています。

9ことると，なんこのこりますか。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

**MCj02279180000[1]**

②見通し:答えの出し方をどう言ってよいかわからない。

→　数図ブロックを使って，お話をすればよい。

②学習課題:かきをブロックにへんしんさせて，13－9のけいさんのしかたをおはなししよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究:場面と操作を結びつけて追究し，説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

・隣の友だちに自分の操作を説明する。

・全体で「数えひき」「減減法」「減加法」を発表し操作する。

「どのやり方が簡単かな？」

→「10のまとまりからだと，9を一度に取ることができる。」

④共同追究後半（思考を深める）

「9は，はしからでなく，どこから取ってもいいのかな？」

（「いつでも，このやり方は使えるのかな？」）

→「もともと“かき”だから，どこから取ってもよい。」

「今までにも，計算しやすい数にしたことがあった。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・はしから順番に取らなくても，取りやすいところから取ってよい。

・10のまとまりから取ると，一度に取ることができて簡単だ。

⑥定着･活用問題

ブロックをつかって，ひきざんのやりかたをおはなししよう。

1. 15－9　　　(2)　11－8

※手が動かない子には，“かき”に置きかえ，ブロックにつなげる。

※よさに気付かない子が多いときは，10の補数をドリルで扱う。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・課題把握では，残りを求めるひき算の場面（求残）であることを明確にすることが大切である。

・個人追究では，数図ブロックを使った操作を大切に扱いたい。

・全体追究では，3つの方法を実際に操作させることを通して確認し，「まとまり」をつくってひくことにより手際のよさを実感させ，「減加法」「減減法」に結びつけさせたい。

【板書計画】